

学会刊行物の新刊案内

「杭基礎の設計法とその解説」の発刊に当たって

杭基礎の設計法とその解説編集委員会

事業部の永年の課題であった「杭基礎の設計法とその解説」がようやく出版された。本書の編集委員会が編成されたのが昭和55年の暮であり、5年の歳月が費やされた。当初の出版予定より遅れること3年、この間学会と会員諸兄に多大な御迷惑をおかけしたことをお詫びしたい。

本書の意図するところは次の3点である。

学会ではかねてより各機関で作定された杭基礎の設計基準(規)準や示方書など(以下設計基準等という)の統一を念願としてきた。本書の編集をその契機とすることが第一の意図とされた。しかしことと志と違い、この要望に応えることはできなかった。実際に編集方針の検討に入ってみると、道路・鉄道・港湾・建築の各分野とも長い歴史的背景があって、杭基礎の概念、用語、安全率などが異なり、一朝一夕に統一することは困難な作業であることが分かった。それで本書は各基準類の基底となる理論的背景の解説に重点を置き、それを各基準類がどのように取り込んで実務に供されているかが分かるようにした。理論の解説部分では原点から説き起こし、考え方が分かるように記述されているから、多少骨っぽい所があるかもしれないが、基本から勉強しようとしている方々にはお役に立つものと自負している。

第二の意図は、「杭基礎には解決されなければならないたくさんのことがある」のを知っていただきたいということである。設計基準類が整備されるに従って、杭基礎の設計法が確立されたかのような錯覚を与えている。最悪の場合として、各規定の精神や考え方がどこかへ押しやられ、解説の数値が一人歩きしている場合も見受けられる。これは技術の退歩である。本書は単なる設計法の解説ではなく、あえて問題の提起とその解決の方向について触れることにした。これによって現行の設計法の位置付けが明確になるであろう。

このことに関連して、第三の意図は技術者の復権である。設計基準類が今日のように整備されていない時代、主任技術者の判断が設計の鍵であった。計算を主体とする設計ではなく、計画から調査・施工・維持に至る広義の設計行為に必要な事項を本書に盛込んだのは、その故である。

最上武雄先生が土質工学ハンドブック(1965)の序文でSkemptonの言葉を引用し、ハンドブック・エンジニアにならないようにと戒められた。われわれも設計基準エンジニアにならないよう心したいものである。

(文責：横山幸満，編集委員長)

目 次

第1章 杭基礎の概要	第7章 杭基礎の反力および変位の計算法
第2章 杭基礎の計画	第8章 杭本体の設計と構造細目
第3章 杭基礎のための調査と試験	第9章 特殊条件下の杭基礎
第4章 設計一般	第10章 杭基礎の課題と動向
第5章 杭の鉛直支持力の算定	付録
第6章 杭の水平支持力の算定	索引

A 5 判上製本 1045ページ 60年12月発行

定価 16,000円，会員特価 12,000円，送料 450円

発行：土質工学会 〒101 東京都千代田区神田淡路町2-23(菅山ビル4階) 電話 03-251-7661(代)